

人類社会がかつてないスピードで変化している中で、新たな知の創造と活用による知の復権をはかり、それを担う人材を陸続と輩出する機関としての大学への期待は大きい。

このような状況のもとで、大学は世界規模での熾烈な競争にさらされ、急速に変わることが求められ、変わることができなければ確実に衰退する。すでに、世界有数の総合大学として認知されている東京大学も例外ではない。東京大学は、この時代の要請を好機と捉え、21世紀の世界人類をリードする総合大学となることを目指していく。それは、東京大学を、世界の最優秀の若者が集い育まれ、トップの研究者が新たな知を創造し、切磋琢磨しながら互いに高め合い、そして、生み出された知を人類共通の資産として社会に広め、活用を促す場にするのである。その実現には、先達が培ってきた力や伝統を基盤としつつ、速やかにかつ持続的に自らを変えて行かねばならない。「自律分散協調系」と「知の構造化」をキーワードとし、東京大学の全ての構成員が生き生きと主体的にその共同作業に取り組むための環境を整えていく必要がある。

基軸は、(1)自律性の高い部局の連合体としてのポテンシャルを堅持し活用するための基盤強化、(2)そのための全学協調の仕組みの確立、(3)新しい知の創造、学術と社会の交差を触発するための知の構造化の推進、である。このもとに、東京大学における教育、研究、国際的活動や社会連携を、東京大学の多彩で優れた人材の豊かさを生かしつつ一層強化する。これを進めるために、財務を強化し、キャンパス環境の整備を図り、さらに組織運営の改革を行う。これによって、機動力のある中枢、緩やかな分権、柔軟なインターフェイスという3つの仕組みを軸とした、社会から信頼され活力のある21世紀の大学モデルが確立されることになる。こうした大学のあるべき姿を自ら実践するとともに、わが国の高等教育ビジョンとして社会に提言していく。

このような目標に向け、小宮山総長の4年間の任期中に取り組もうとしている課題について、教育、研究、国際的活動、組織運営、財務、キャンパス環境、情報発信と社会連携という柱ごとに、以下のとおりとりまとめた。

教育

- ・ 世界最高の人材育成の場を提供
 - ・ 本質を捉える知、他者を感じる力、先頭に立つ勇気を備えた人材の育成
 - ・ 21世紀の地球人としての教養を身につけた品格のある人材の育成
- 1 教養教育の強化
 - 学術俯瞰講義の開始
 - 学術統合化プロジェクトの成果の教養教育への還元など、先端的研究と学部前期課程基礎教育の創造的連携の推進
 - 基礎学力の強化と学志の向上をめざす平成18年度新カリキュラム実施への全学的支援、生命科学機構による教養教育支援、全学体験ゼミナールの全学的支援
 - 教養教育開発機構の強化と東京大学の教養教育モデルの世界的発信
 - 東大に入ってよかったと新生が感ずる駒場キャンパス学生用施設の整備
 - 2 知の構造化と融合領域の教育体制の創成
 - 知の構造化を体現した構造化カリキュラムを実現
 - ・ 「東京大学授業カタログ」に検索機能を搭載してweb上で公開
 - ・ UTOCW事業の推進による知の公開及びカリキュラムの構造化とその可視化の推進、情報通信技術を活用した教育環境の整備の推進
 - 大学院教育の抜本的充実
 - ・ 大学院修士課程カリキュラムの整備と構造化の推進
 - ・ 課程博士授与率の抜本的向上など博士課程教育の充実
 - ・ 博士課程修了者の社会進出支援
 - 学生の質の保証(成績・卒業認定の一層の厳正化、学業優秀者表彰など)
 - 融合領域の教育体制創成とメジャー・マイナー制の導入
 - ・ 学部レベルでは経済学部金融学科構想、理学部生物情報学科構想、メディアコンテンツ学科構想などを検討
 - ・ サステナビリティ学連携研究機構、生命科学機構、ASNET等の学部学科横断型組織の学部・大学院教育への参入
 - ・ 大学院レベルでの医工連携などの推進
 - 起業を目指す学生・研究者の育成のための東京大学アントレプレナー道場の実施
 - 従来部局ごとに積算されてきた学生定員について全学的な管理政策を検討
 - 3 連携型教育の積極的展開
 - 環境・エネルギー問題や計量経済学等の課題に取り組むための文理融合

教育研究方法論の徹底的追求と組織整備

- 人材育成・人材交流等多様な産学連携モデルの構築
- 海外分校の可能性の検討も含めたグローバルな人材養成の展開

- **4 「人間教育」とキャンパスライフの充実**
 - 「人間教育」と学生の社会性の向上という視点をもった、学生の学習支援・メンタルケア・キャリアサポート体制の抜本的強化(学生支援センター構想)
 - インターンシップの充実、人間教育のために社会へ協力要請
 - 学生の声を受け止め、不安に機敏に対処するシステムの形成、〇〇キャンパスSOSシステム、成績評価に対する異議申立や指導教員変更希望などに対処するシステムの整備

- **5 高度職業人教育・社会人向け教育の推進**
 - 一般の大学院における職業人教育の見直しを行うとともに、専門職大学院、社会人を対象とした「エクゼクティブ教育プログラム」における高度職業人教育を推進
 - ITを活用した自己学習支援

- **6 世界の東京大学にふさわしい学生の獲得**
 - 優秀な学生の積極的獲得に乗り出す
 - 進学振り分け制度の改善、学部後期課程へのガイダンス強化
 - 大学院生、とくに博士課程院生への奨学・奨励制度の抜本的充実
 - 全世界、とくにアジアからの優秀な留学生の獲得と、そのための戦略の構築・奨学金制度の充実、東大からの派遣留学制度の充実

研究

- ・ **新たな知の創造と活用による知の復権**
- ・ **自律・分散による知の創造**
- ・ **協調による知の構造化と学術の統合**
- ・ **社会との交流:地球社会が抱える重要課題の解決策やその選択肢の提示**
 - **1 自律的・自発的研究の支援**
 - 外部資金の有効活用によるボトムアップの研究の推進
 - 部局が持っている概算要求関連のアイデア等について、その実現化を支援(文部科学省への要求、学内措置、社会からの支援獲得など)
 - 基盤的学術図書の安定的確保

- 2 全学的新機軸研究へのチャレンジを総長室が牽引

- 知の構造化を促進
 - ・サステナビリティ学連携研究機構 ・Alliance for Global Sustainability
 - ・生命科学機構
- フロンティア領域の推進
 - ・総括プロジェクト機構の充実
 - ・学術統合化プロジェクト(ヒト、モノ、地球、宇宙)の推進と新規領域の開拓
- これらのプロジェクトの実施により柏キャンパスを活性化

- 3 近年実施した新機軸のレビューと将来計画の再構築

- 大学院重点化、情報研究教育体制、柏キャンパス、駒場第二キャンパス

国際的活動

- ・ 地球持続・人類生存に関わる課題への取り組み
- ・ 世界トップレベルの大学との交流による切磋琢磨
- ・ 世界の学術において名誉ある地位を獲得
- 1 部局との連携及び国際連携本部による海外活動の充実と本学の国際的プレゼンスの向上
 - 世界トップクラスの大学・研究機関との連携と海外拠点の増強
 - 海外分校設置の検討
 - アジアの信頼獲得のための人的ネットワーク強化
 - 戦略的な国際交流ネットワークの構築と、そのための国際戦略ライブラリの作成・国際化推進長期構想の策定
- 2 世界トップクラスの大学・研究機関との学生・研究者交流
 - 外国人研究者滞在用住居(インターナショナル・ゲストハウス)の整備・外国語資料の充実など、留学生や外国人研究者の交流のインセンティブを高める環境の整備
- 3 柏国際キャンパスの構築に向けた取り組み
 - 世界トップクラスの研究施設整備、並びに、外国人研究者・留学生のための宿舎の整備、地域と連携した生活支援体制の構築などキャンパスの国際化推進のための環境整備

組織運営

- ・ 自律分散協調による新しい大学のモデルを構築
- ・ 大学を支える現教職員の雇用確保と流動性の促進
- ・ 財務基盤を徹底的に強化
- ・ 業務改善による業務の効率化と質の向上
- 1 現場サポートの強化:教育研究時間の確保
 - 協調系の発掘、協調系研究教育活動の支援、資金獲得支援等のための研究支援オフィスの構築
 - 部局パートナー(飛車角方式)の活用
 - 国際、産学連携等の機能別部局連携ネットワークの強化
 - ポスト知的財産本部整備事業への対応、研究成果の技術移転に関する専

門人材の育成

- 情報システムの強化に基づく教育研究情報の効率的な管理
- **2 教育研究支援職員の育成**
 - 教育研究支援職員の責任範囲を拡大し、任せることにより、その能力向上を図る
 - 職員の持つべき能力を示して、そこに向けたスキルアップとキャリア形成のモデルを提示
 - 職員の人事の改善、組織の見直し、業務の見直しを一体的に推進
- **3 柔軟な組織試行による教育研究活性化の支援**
 - 多様なスタイルの教育研究活動の支援(「認定組織」や「アフィリエイト(アジャクタント)組織」)
- **4 働く意欲を喚起する給与等システムの東大モデルを構築**
 - 東京大学の強化に貢献した人々へのインセンティブを与える制度の検討
 - 東京大学の国際競争力を担保し、魅力ある勤務環境の整備
- **5 総長室の意思決定システムの高度化**
 - 総長補佐の少数精鋭化・意思決定支援の強化
 - 理事の責任体制の明確化と連携強化
 - 適切な情報開示による総長室の活動の透明化
- **6 総長室と部局・教職員・学生との連携・コミュニケーションの強化**
 - 部局や教職員・学生との意見交換の機会の拡充(朝食会・web上の掲示板等の活用)
 - 理事・幹部職員の「オフィス・アワー」の創設
- **7 人事管理の自由度の拡大**
 - 人事制度ルールモデルの提示とオプション化
 - 人事運用の包括化
- **8 世界有数の総合大学にふさわしい病院の強化**
 - 総合大学と社会との接点としての病院機能の強化支援
 - 病院財政基盤の強化
 - 保健センターの機能強化を目指した組織的位置づけの検討

財 務

- ・ 多様で総合的な自律的教育研究を発展させる財務モデルの構築
- ・ 多様性の中から新し

キャンパス環境

- ・ 特徴のあるキャンパスに向けて三極構造構想の実現
 - ・ 自律分散系と協調系とが共存できる施設整備・利用ルールの構築
 - ・ リーディング・ユニバーシティに相応しい施設設備整備の実施
 - ・ 豊かな学修・研究環境を保障するキャンパスの実現
-
- 1 三極構造構想実現に向けて
 - 三極構造構想に基づくキャンパス整備に関する財務的全体像の把握と整備手法の検討
 - 本郷キャンパス:樹木等の保全と両立する機能充実(地下の利用)
 -

情報発信と社会連携